

平成 30 年 10 月 23 日 国土交通省運輸安全委員会 委員長記者会見要旨
(運輸安全委員会ホームページから本件関係部分抜粋)

【事故調査の進捗状況報告】

本年 8 月 10 日に発生した群馬県防災航空隊所属のヘリコプター墜落事故について、10 月 15 日及び 16 日の両日、航空事故調査官立会いのもと墜落現場から機体の回収が行われ、群馬県が管理する施設において、機体調査を行ったところです。引き続き機体の詳細調査を実施して参ります。

また、同機のヘリコプター動態管理システムやビデオカメラについては引き続き解析中ですが、事故発生から二ヶ月が経過しておりますので、これまでの解析や当時の気象状況、目撃者への聞き取りなどから、調査で判明した事項について、以下の 3 点をご報告いたします。

1 点目として、同機は、当日 9 時 58 分頃に渋峠上空を通過した後、事故に至るまでの飛行において、雲から離れずに飛行するなど、有視界気象状態を維持して飛行することが困難な状態が発生していたと考えられます。

2 点目として、同機は、渋峠上空を通過した後、9 時 59 分 40 秒と 10 時 00 分 46 秒に二度にわたり速度を大きく落として U ターンに近い右旋回を行うなど進路を大きく変更しております。同機が視界の開けたところを探しながら飛行していた可能性などが考えられますが、今後、更に調査分析する必要があります。

3 点目として、ビデオカメラに残っている音につきましては、同カメラの集音マイクを介して、主回転翼の回転音及びエンジン駆動系の作動音が記録されておりますが、これまでのところ機内の会話の内容などについては確認できておりません。今後、慎重に調べていきます。

これらの情報が本事故にどのように関与したかについては引き続き調査中ですが、当委員会としては、同種事故の再発防止のため、原因究明を早急に行い、できるだけ早期に調査報告書が公表できるよう最大限の努力を行って参ります。

一方で、再発防止につながるような事実なり知見が得られた段階におきましては、最終報告書のとりまとめ前でも積極的に情報提供していく考えです。

【質疑応答】

問：1点目のビデオカメラの映像について、9時58分以降は、雲から離れない状態が続き、ところどころ見えるところがあったけれども、雲から離れることが出来なかった映像が写っていたということで良いですか。

答：若干見える時もあったようですけれども、雲から離れずに飛んでいたという状況です。

問：9時58分以前の映像では、雲の状況は如何でしょうか。

答：有視界気象状態を維持することが出来ない、雲に非常に近い状態で飛行していたことが確認されたのが、9時58分頃に渋峠上空を通過したあたりからということでした。

問：2点目の進路の変更について、二度にわたり速度を落としてUターンに近い右旋回とありますが、これは回避行動と捉えてよいのですか。

答：視界が開けたところを探しながら飛んでいた可能性などが考えられるところです。

問：Uターンをしてもなお、視界不良の状況が続いていたということですか。

答：そういう状況です。

問：3点目のビデオカメラの音声について、異常音とか故障を示すような音は入っていたのでしょうか。

答：まだ、分析中ですので具体的なことを言える段階ではありません。